

2026年 アジア・アジアパラ競技大会組織委員会 村手 聡・事務総長に聞く

2026年秋、愛知県・名古屋市で開催される「第20回アジア競技大会」「第5回アジアパラ競技大会」は開幕まで2年余となった。アジア大会は日本では32年ぶり、3度目の開催となり、アジアパラ大会は日本で初開催となる。夏季オリンピックは24年にパリで、28年にはロサンゼルス大会が予定され、アジア競技大会は五輪の中間年にあたり、有力選手の出場も期待されている。同大会組織委員会の村手聡・事務総長に大会のコンセプトや準備状況などを、本誌の塚本隆編集長が聞いた。



—大会の意義を教えてください。

村手聡事務総長 アジア大会・アジアパラ大会は26年9～10月に開催されますが、アジア大会は1951年、第二次世界大戦で引き裂かれたアジアの絆を取り戻そうと始まった経緯があります。東京五輪では不祥事があり、札幌の冬季五輪誘致も停止するなど、経費問題も含めてスポーツ大会に逆風が吹いています。しかし、そんな時だからこそ、高い理念の下で、見る人が心を動かされる総合スポーツ大会の開催意義を再確認できる良い機会になればと思います。

—大会の目標は何でしょうか。

村手氏 まずは大会のサスティナブルな運営ですね。競技場や選手村を新たに作り、都市開発をする手法では持続が困難です。理念を大切にしつつ、今後どの地域でも開催できるようなモデルを示したい。昨年中国・杭州市での大会を愛知・名古屋が新たな形で引き継いでいきたいと思っています。また、当地域と発展著しいアジア圏との交流が深まり、産業、観光、文化など様々な分野で今後につながる良い効果が生まれればいいですね。

—大会スローガンは。

村手氏 アジア大会は「IMAGINE ONE ASIA」、パラ大会は「IMAGINE ONE

HEART」です。ここで、ひとつに、心を、一つに、想像しようということです。

—大会のコンセプトも分かりやすいですね。

村手氏 アジア大会は「アスリートセンターの視点」「既存施設の活用」「先端技術の駆使」「伝統と県民・市民性に触れるおもてなし」「大会を誇りにさらなるスポーツ文化の普及へ貢献」です。パラ大会は「共生社会の実現」も加えています。特に既存施設をうまく活用する、新たな運営手法が提示できればと思っています。

—大会の概要、観客数は。

村手氏 アジア大会は45の国・地域の最大15,000人の選手団が参加し、41競技を行います。競泳・飛び込みと馬術は東京で実施し、競技場は50カ所以上です。パラ大会の選手団は3,600人～4,000人で、19会場、19競技です。観客数は杭州が305万人でした。愛知・名古屋大会も多くの方、特に子供たちに見に来ていただきたいですね。一流のアスリートの競技を目の前で見る機会は多くはありません。子供たちが心に感じ、自分も体験したいと将来の夢を描いてくれればうれしいですね。

—選手村新設を見送りましたね。

村手氏 施設づくりを膨張させず、コンパクトな大会を目指して、既存施設を活用する